独自の業務支援システム

根津鋼材が順次運用開始

品質判断・在庫管理・配送受付など

「非接触」「遠隔」で効率化

有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津訓光氏）で事務所のさまざまな業務を、独自開発したシステムによって「非接触」かつ「遠隔」で把握・受付・指示できる仕組みを立ち上げ、順次運用を開始した。

工場で何か「異常」が発生した際、その一報を現場端末から発信すると事務所側でその情報を即座に受信できる「遠隔品質判断」システムがその一例だ。

事務所にいながら現場とリアルタイムに「品質判断（上）、浦安事業所1階に設置した「受付システム」で検温と顔認証

遠隔で「異常」に対処

現場からの第一報が品質管理者・加工指示者の端末に表示され、応答すると、事務所端末が自動で「異常対処画面」に切り替わり、スタッフ同士は離れていても現場―事務所間で問題対処に従事できる。

問題や異常の内容は、端末のマイクやカメラで双方が同じ画面（動画・写真）を見ながら対話することで詳細に把握・確認でき、異常や不具合、顧客クレームに関して過去からの蓄積データなどとも照らし合わせながら端末から発信された時間ロスがなく、迅速な状況察知と処置によって顧客へのレスポンス時間も大幅に短縮した。

在庫状態を可視化

きょう明日中に使用する在庫や出荷する製品在庫を、タブレット画面上でリアルタイムに可視化した独自ソフトも機能している。

この間、事務所スタッフが現場に足を運ぶ「行き来や担当者不在で現場での作業が停滞するといった現場―事務所の管理データ情報を包括したタブレットを工場や運送系スタッフに支給。その一つが「在庫状況リアルタイム把握」ソフトだ。

工場内の在庫ヤードは番地管理されており、母材コイルや仕掛かり材、出荷待ち製品がそれぞれ「どこに、どんな状態で保管されているか」や「次に何をするか」が表示される。それによって次工程を考慮し、どの在庫をどの番地に前もって移動しておけば次の作業がスムーズになり、最小限のクレーン待ちで済む構内物を実現するかを、現場の誰もが「一目瞭然」でき、モノの移動情報もリアルに更新するのでタイムラグがない。

顔認証、結露対策

他にも「庸車ドライバーの顔認証システム」が稼働している。顔認証で予め登録した車両番号と連絡先を照合し、持込・引取に関わる受付作業の完全ペーパーレス化と遠隔指示・状況報告を自動化した。運転手と事務員との作業はすべて遠隔で非接触。紙の媒介も無く「コロナ対策」にも効果を発揮している。

工場内の結露・防サビ対策にも独自開発したシステムを活用するなどさまざまなIT・デジタル技術を実際の業務に採用し、成果に結びつけている。

「Nコネクト」構想

同社はITを採り入れた受発注業務や各種管理、事務・現場作業の自動化や省力（人）化にいち早く着手。ペーパーレス化にもめどをつけ、これまでに蓄積した社内運用ノウハウをベースに取引先への応用展開に入った。

今までに立ち上げた個々のシステムを連結し、さらなる業務効率化、すなわち事務作業に関わるムダ排除・負荷軽減・時短・省人化につなげる独自の「Nコネクト構想」（Nは根津グループの意）を推進中。AI化を着々と進めていく方針だ。

▼6面「鉄鋼関連・流通加工」版に詳細